



見頃の薬用植物

■ トウキ

Angelica acutiloba

生薬名：当帰

薬用部位：根

薬効：鎮痛、鎮静、補血



婦人病の主薬。名の由来は、「嫁いだ女性に子供ができず、子宝に恵まれるよう実家に帰って当帰を服用し体を温め、妊娠できる元気な体になってから婚家に当（まさ）に帰った」など婦人病に関わる様々な昔話とともに諸説ある。

■ カラスビシャク

Pinellia ternata

生薬名：半夏（はんげ）

薬用部位：塊茎

薬効：鎮吐、鎮咳、去痰



花の形が小さな匙のようだから「カラスのひしゃく（烏の柄杓）」と俗にいわれる。生薬名「半夏」は夏至から11日目（7月2日頃）の半夏生（はんげしょう）に薬草を採取するところからつけられた。

■ スペインカンゾウ

Glycyrrhiza glabra

生薬名：甘草

薬用部位：根及びストロン

薬効：健胃、鎮痛、去痰



局方収載漢方処方約70%に配合される最も重要な生薬。他の生薬の薬能を高めたり、緩和することから「国老」の別名がある。食品の甘味料、矯味料にも用いられる。

■ ニゲラ（クロタネソウ）

Nigella arvensis

薬用部位：種子

薬効：利尿



開花後、袋状の果実の中に小粒の黒い種ができることからこの名がついた。花びらに見える部分は萼片。アラブ・イスラム地域では、種々の病気に民間薬として重宝されている。「ブラッククミン」の名で料理のスパイスとしても用いられる。